

クボタポンプ改造カタログ

KUBOTA PUMP REMODELING

—無注水化改造編—

クボタ環境エンジニアリング株式会社

■ 枚方事業センター	〒573-0004 大阪府枚方市中宮大池一丁目1番1号	TEL 072(840)5727
■ 東京ポンプ営業部	〒104-8307 東京都中央区京橋二丁目1番3号	TEL 03(3245)3141
■ 大阪ポンプ営業部	〒661-8567 尼崎市浜一丁目1番1号	TEL 06(6470)5900
■ 北海道ポンプ部	〒060-0003 札幌市中央区北三条西三丁目1番54号	TEL 011(214)8166
■ 東北ポンプ部	〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目6番1号	TEL 022(267)8962
■ 中部ポンプ部	〒450-0002 名古屋市中村区名駅三丁目22番8号	TEL 052(564)5046
■ 中国ポンプ部	〒732-0057 広島市東区二葉の里三丁目5番7号	TEL 082(546)0479
■ 四国ポンプ部	〒760-0050 高松市亀井町2番地1号	TEL 087(836)3913
■ 九州ポンプ部	〒812-0011 福岡市博多区博多駅前三丁目2番8号	TEL 092(473)2485

今使用しているポンプで困っていませんか？

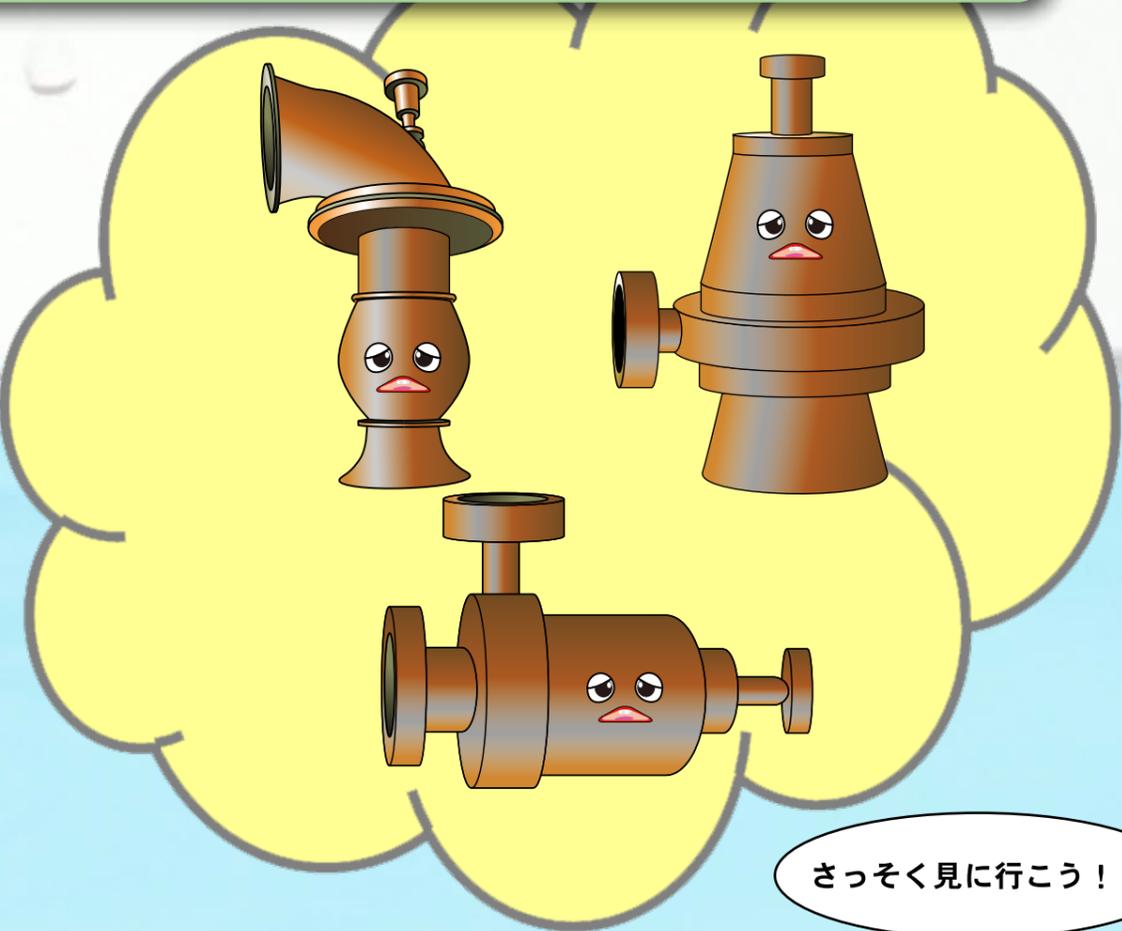
無注水化改造の目的

ポンプ改造による省エネ・省コストが可能！！

近年、地球温暖化等の環境変化により、頻発する局地的な集中豪雨や台風により起こりうる、床上浸水や道路冠水などの水害。そこで活躍しているクボタポンプ。

私たちクボタグループとして、局地的な集中豪雨における、雨水排除の信頼性を向上させる技術や維持管理性の向上、更には省エネの観点より、お使い戴いているポンプの無注水化改造技術のご提案を致します。

従来の注水タイプは冷却設備の故障による断水や、地震等による断水が発生した場合、運転が不可能となります。無注水化への改造を行う事により、冷却設備が不要となり、簡単で、より確実な排水システムへ生まれ変わります。また、更新コストの縮減や、維持管理経費(冷却設備を運転する事による、電力料金、水道料金)の削減も実現できます。



さっそく見に行こう！！

これは、大変だ！！



クボタ機工がその悩み解決します！

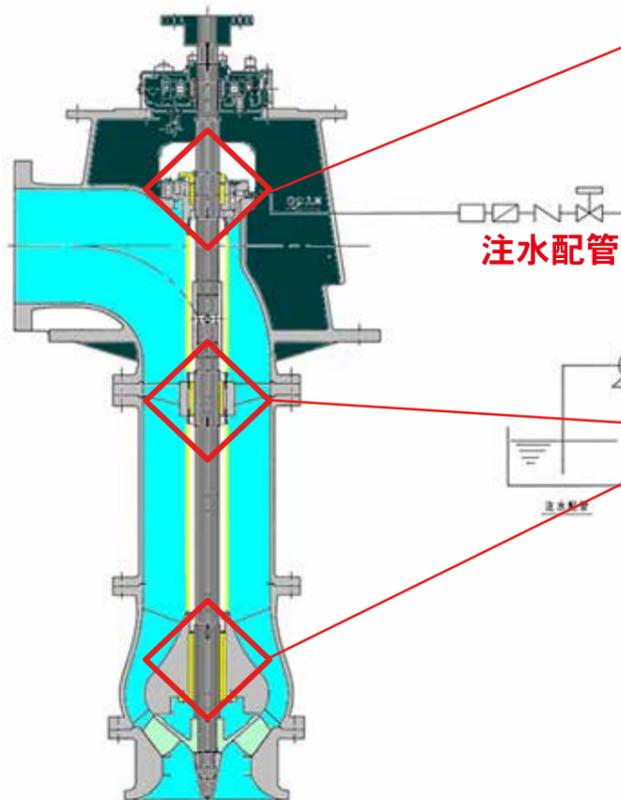


クボタポンプの無注水化改造

●構造による改良点の紹介

立軸ポンプ（斜流/軸流）の無注水化

注水型



グランドパッキン

・注水が必要

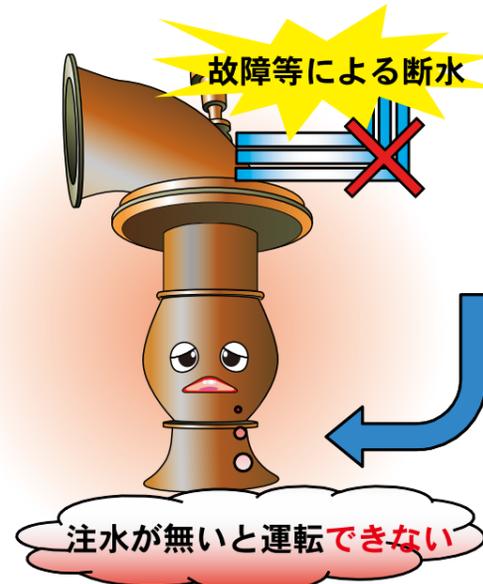


ゴム軸受

・保護管有 注水が必要



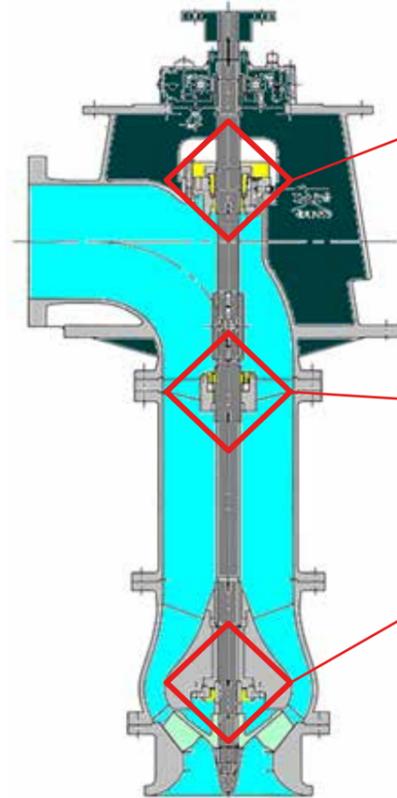
●注水配管・補器類が必要です。



無注水化

無注水型

●ケーシング等の主要部品の取替無しで無注水化改造が可能です。



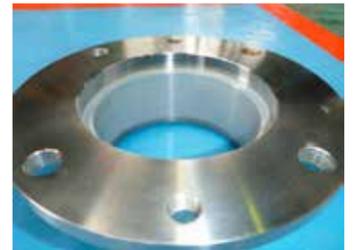
ラビリンスシール

・注水が不要



セラミックス軸受

・保護管無 注水が不要



●注水配管・補器類が無くなり、保守が軽減できます。



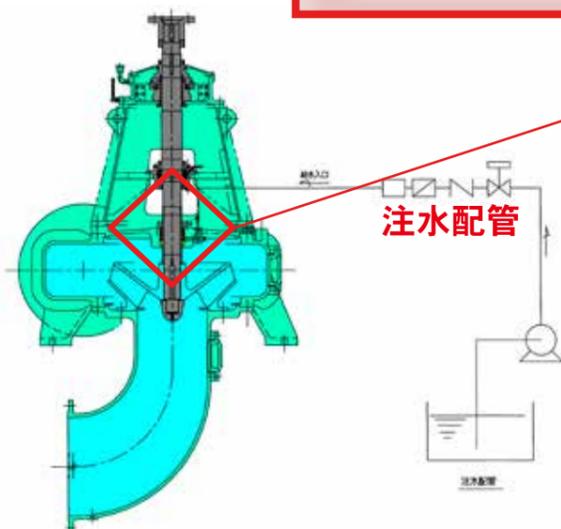


クボタポンプの無注水化改造

●構造による改良点の紹介

立軸渦巻斜流ポンプの無注水化

注水型



グランドパッキン

・注水が必要

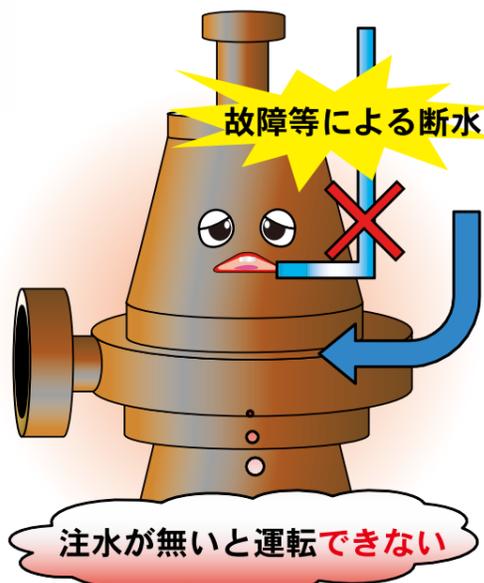


メカニカルシール(注水型)

・注水が必要



●注水配管・補器類が必要です。



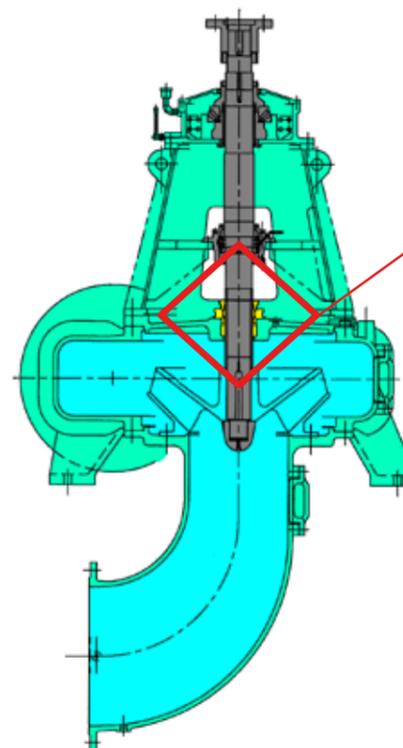
故障等による断水

注水が無いと運転できない

無注水化

無注水型

●ケーシング等の主要部品の取替無しで無注水化改造が可能です。

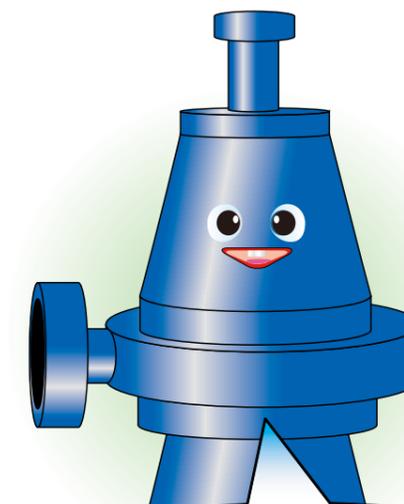


メカニカルシール(無注水型)

・注水が不要



●注水配管・補器類が無くなり、保守が軽減できます。



注水が無くても運転できる



クボタポンプの無注水化改造

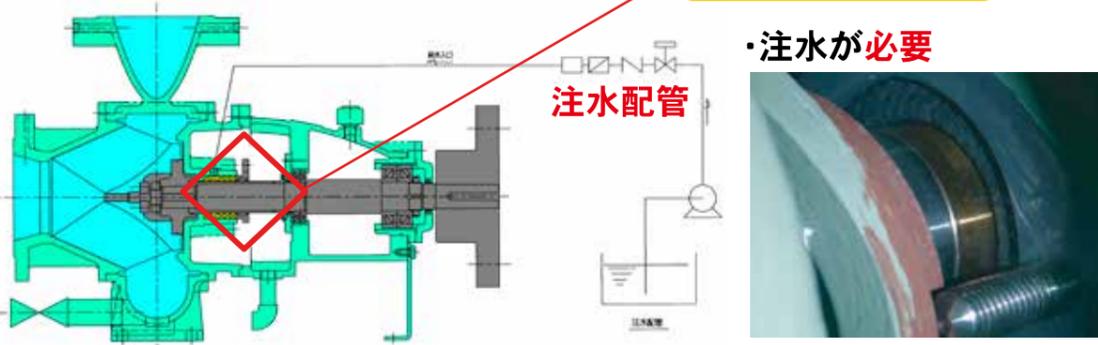
●構造による改良点の紹介

小型陸上ポンプの無注水化

注水型

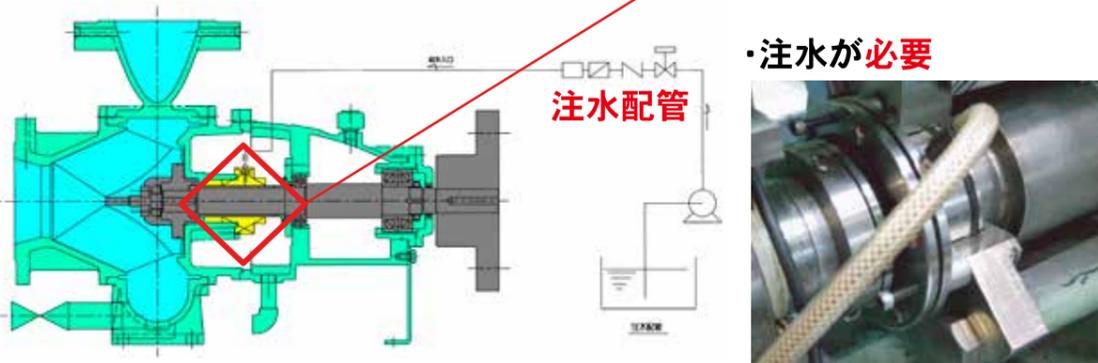
グランドパッキン

・注水が必要



メカニカルシール(注水型)

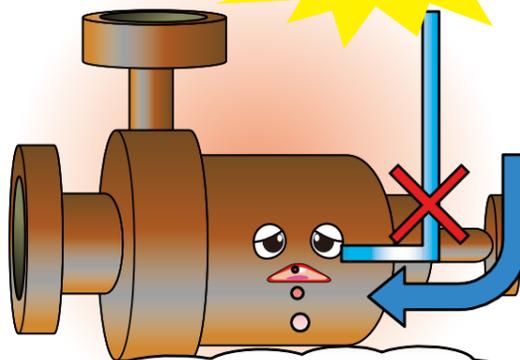
・注水が必要



●注水配管・補器類が必要です。



故障等による断水



注水が無いと運転できない

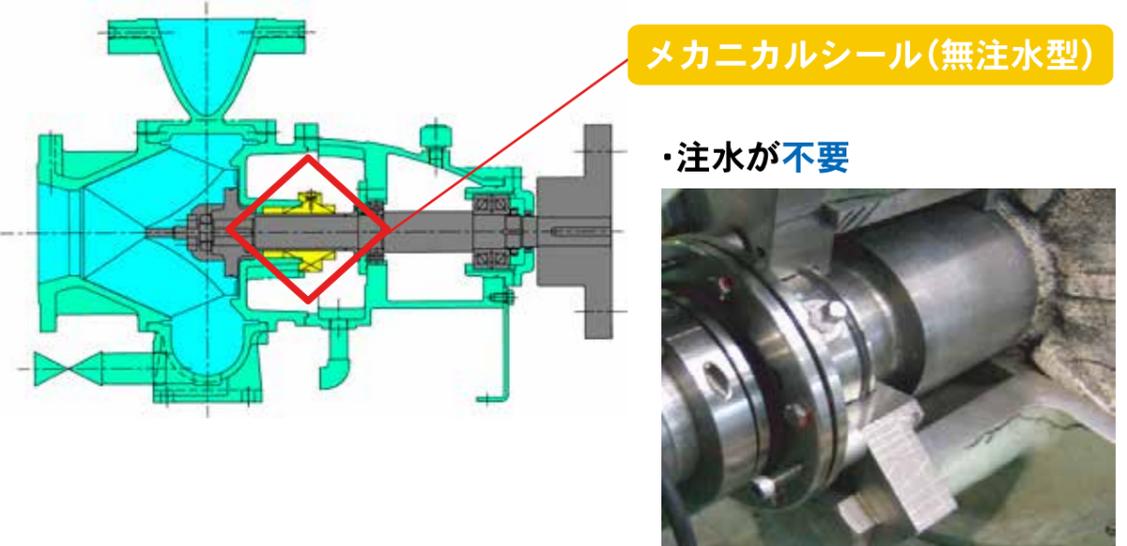
無注水化

無注水型

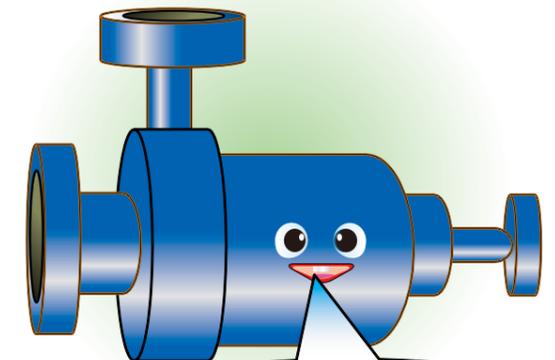
●ケーシング等の主要部品の取替無しで無注水化改造が可能です。

メカニカルシール(無注水型)

・注水が不要



●注水配管・補器類が無くなり、保守が軽減できます。



注水が無くても運転できる

無注水化技術のポンプに生まれ変わります！

導入効果

ポンプ機能の信頼性向上

無注水化によるシステムの簡素化により、冷却設備の故障が無くなり、大きく信頼性が向上し、より確実な排水設備となります。

保守の軽減

無注水化によるシステムの簡素化により、冷却設備系統の点検項目が無くなり、その分保守が軽減できます。

維持管理経費の削減

冷却設備を運転する電力や水道料金(冷却水に水道を使っている場合)が不要になります。また、冷却設備の整備費、更新費用等も不要となり、維持管理費用の削減につながります。

